



図1 乾癬患者は4F (Friendly, Fatty, Frankly, Fertile) といわれている。



図2 帯状疱疹後神経痛患者には4Fの印象は抱かない。乾癬は帯状疱疹に罹患しにくいと記載された専門書もあり、気質を考えるうえでも興味深い。

疾患気質

馬 淵 智 生

東海大学医学部専門診療学系皮膚科学教授

“疾患気質”というものを感じたことはないだろうか？ たとえば、乾癬患者はおおらかで、アトピー性皮膚炎患者や帯状疱疹後に神経痛が強く残る患者は細やかである、等々。

私が疾患気質を初めて意識したのは、初期研修で形成外科をローテイトしていたころである。乳癌術後、乳房再建術を受けた入院患者を担当していたとき、上級医が何気なく発した「乳癌気質ってあるからね」という一言からだった。初期研修が終了し、皮膚科医になり、そのキャリアを重ねるうちに、いくつかの疾患では患者の気質が似通っていることに気づいてきた。乾癬患者は4F (Friendly, Fatty, Frankly, Fertile) といわれていると知り、最後の多産はともかく、人なつこい(もしくは優しい)、太った、率直な、という部分はなるほどと納得した。同時期に大学院に進学、学内の研究室でマイクロサテライトをマーカーとした乾癬の遺伝的相関解析に従事し、連鎖不平衡という概念を学んだ。連鎖とは2つの遺伝子間の距離が短いほど、その2つの遺伝子が一緒に子孫に伝わりやすいということであ

る。であれば、もちろん単純な話ではないが、ある疾患をコードしている遺伝子と、ある性格をコードしている遺伝子が一緒に子孫に伝えられることもあるのではないかと。脳の血管病変や血栓症、神経の変性によって生じる疾患特異的な性格あるいは精神症状などは、医学的に疾患気質として理解しやすい。または、精神医学的見地からの検討も多数報告されている。その一方で、遺伝的背景から来る疾患気質もあるのではないだろうか。

研究室の恩師は、ご自身が大学医学部在職中に設立されたベンチャー企業で現在も疾患の遺伝子解析を継続される一方、性格の遺伝子解析にも着手された。近い将来、性格に関わる遺伝子が同定されるであろう。

疾患気質を遺伝学的に解明すること。専門用語を用いると、形質情報と遺伝情報の結びつきを解明すること。私がライフワークとして密かに温めているテーマの1つである。たいへん困難なテーマであるが、いつの日か、その一部でも解明したいと思っている。